

□議員名：会派明政会 伊場 勇

1 令和2年度施政方針について

論点	市長が大切にしてきた個人や団体が一緒になってまちづくりを進める仕組みづくりとは何か。
回答	行政だけでは担えなくなった地域課題やまちの未来を市民ともに考えながら力を合わせて取組み、「協創」のネットワークを作っていきたい。その中で地域運営組織を有効な手段と考え重点的に進めていく。

論点	スマイルエイジングに取り組む中で、健康寿命の延伸で期待できる効果は何か。
回答	子供からお年寄りまで、また障害等の有無にかかわらず市民の誰もが心身の健康を保ちつつ笑顔で幸せに年を重ねていくことが大切であり、また、副次的な効果として、人が元気になることでまち全体が元気になること、元気で生き生きとした高齢者がふえることで就労促進や生きがいの向上につながることも考えられる。さらに、地域でのボランティア活動等の社会参加をする人の増加により、地域のつながり、つまり地域力の向上にも効果が期待できるものと考えている。

論点	小規模農家を守る観点と農業振興について、抜本的な改革が必要ではないか。
回答	地域の方々がこれまで脈々と築き上げてこられた地域の農業、農地、農村の伝統文化や自然景観などを子供や孫の世代にしっかりと引き継いでいくため、農業委員会等の関係機関と連携し、人・農地プランの実質化を推進し、持続可能な力強い農業の実現に向けて基本となる人と農地の問題の一体的な解決に努めていく。

論点	本市の商店街の活性化についての考えはどうか。
回答	魅力的なまちづくりは魅力的な商店街づくりから始まるものと考えますが、現在は空き店舗対策ができていない。引き続き商工会議所などと連携し、地域の特性などを見極めながら研究を進めていく。

論点	スマート自治体の取組みについてはどうか。
回答	I C Tを活用して職員の業務負担の軽減を行い、ひいては住民や企業等への利便性の向上につなげていく取組みである。本市においても、来年度はR P AやA I - O C Rの導入に着手し、令和3年度からは庁内他業務への横展開を検討していきたい。

論点	スマートシティの取組みについてはどうか。
回答	他市では行政のほか、各種団体、地元の大学や企業などで構成されたプラットフォームを形成し、専門的人材を取り込んだ取組みが進められている。このようにさまざまな切り口から横断的に地域課題の洗い出しを行い、専門的知識を持った外部人材を活用したプラットフォームの構築をした上で官民連携で取り組むことが必要であると考えている。また、超高速・超低遅延・多数同時接続という特性を持つ5 Gの商用サービスが開始され、未来社会への位置づけに向けて情報通信基盤が大きく変化することから市としてもスマートシティの実現は喫緊の課題と捉えている。来年度は企画政策課の事務分掌にスマートシティを位置づけ、しっかり取り組んでいく。